

お知らせ

INFORMATION



No.2026-02
2026年1月
病体生理研究所

新規受託開始のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当研究所をご利用いただきまして誠に有り難うございます。

この度、下記項目を新規受託いたしますのでご案内申し上げます。

何卒、ご利用賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

【新規受託項目】

- ◆ マイコプラス[®]マジエニクリウム核酸およびマクロライド[®]耐性変異同時検出
[38270] [38290] …検査実施施設 S
- ◆ HLA-A (遺伝子型タイピング) [38181] …検査実施施設 S
- ◆ HLA-B (遺伝子型タイピング) [38182] …検査実施施設 S
- ◆ HLA-C (遺伝子型タイピング) [38183] …検査実施施設
- ◆ HLA-DRB1 (遺伝子型タイピング) [38184] …検査実施施設 S

※項目情報裏面参照

《受託開始日》：2026年2月2日（月）受付分より

【新規項目情報】

項目名称	マイコプラズマジェニタリウム核酸およびマクロライド耐性変異同時検出	
検体材料	分泌物	部分尿
項目コード	38270	38290
検体必要量	—	1.5mL
保存安定性	絶凍	絶凍
検査方法	リアルタイム PCR	
判定基準(単位)	検出せず	
所要日数	4～6 日	
実施料(区分) 判断料	350 点 (D023 12) ※1 150 点 (微生物学的検査診断料)	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・他項目との重複依頼は避けてください。 ・分泌物：子宮頸管周囲の過剰な粘液を綿棒等で取り除いた後、滅菌スワブを子宮頸管内に挿入し、同じ方向に複数回して採取してください。スワブは滅菌容器に入れ凍結保存してください。 ・部分尿：最後の排尿から少なくとも1時間以上経過後の初尿を採取してください。 ・本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 	

※1 「マイコプラズマジェニタリウム核酸及びマクロライド耐性変異同時検出」は、以下のいずれかに該当する場合であって、リアルタイム PCR 法により測定した場合に算定する。

ア マイコプラズマジェニタリウム感染症を疑う患者に対して、治療法の選択を目的として行った場合。

イ マイコプラズマジェニタリウム感染症の患者に対して、治療効果判定を目的として行った場合。

■ 性感染症における診断補助および適切な抗菌薬の選択に有用な検査です ■

マイコプラズマジェニタリウム (*Mycoplasma genitalium*:MG) 感染症は、男性では尿道炎、女性では子宮頸管炎を引き起こす性感染症の一つです。

マイコプラズマジェニタリウムは、薬剤耐性化が世界的に問題となっており、日本においても第一選択であるマクロライド系抗菌薬に対し、50%以上が耐性化しているとの報告があります。多剤耐性例も確認されるなど難治例が増加していることから、薬剤耐性、特にマクロライド耐性を確認するための検査が重要になると考えられています。

本検査は、検体から抽出した DNA を用いて、マイコプラズマジェニタリウム DNA とマクロライド耐性関連変異である 23SrRNA ドメイン V 領域の主要な変異を同時に検出いたします。マイコプラズマジェニタリウムのマクロライド耐性を早期に把握することで、適切な抗菌薬を選択できるようになることが期待されています。

参考文献

日本感染症学会：性感染症 診断・治療ガイドライン 2020（臨床的意義参考文献）

項目コード 検査項目名称	38181	HLA-A(遺伝子型タイピング)
	38182	HLA-B(遺伝子型タイピング)
	38183	HLA-C(遺伝子型タイピング)
	38184	HLA-DRB1(遺伝子型タイピング)
検体材料	血液(EDTA-2Na 加) 2.0mL	
保存安定性	冷蔵(凍結不可)	
検査方法	PCR-rSSO 法	
判定基準(単位)	—	
報告範囲 (単位)	・HLA 型(血清対応型) ・推定アレル(遺伝子型の第1区域および第2区域)	
所要日数	4~7日	
実施料(区分) 判断料	—	
備考	凍結保存は避けてください。受託可能日は月~金曜日です。続柄・臨床診断名・投与薬剤名・輸血歴・移植歴は必ず明記してください。HLA検査2項目以上同時依頼の場合は血液2.0mLで検査可能です。本検査法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。本検査は、HLA型(血清対応型)と推定アレル(遺伝子型の第1区域および第2区域)の両方を報告いたします。	

※本検査をご依頼の場合、「細胞性免疫・HLA検査依頼書」に必要事項、その他項目欄に検査項目名を記入し検体と併せてご提出ください。

※本検査はシステムでの結果返送は不可となっております。紙報告書をお渡しいたします。

■ HLA 型 (血清対応型) と推定アレル (遺伝子型の第1区域および第2区域)の両方を報告する検査です ■

臓器移植と HLA 抗原の関係は、よく研究されており、レシピエントとドナーの HLA 抗原を適合させることが必要とされています。免疫抑制剤を使用している場合でもレシピエントとドナーの HLA 抗原は一致しているほど移植成績が良いとされています。特に骨髄移植において、レシピエントとドナーの HLA 遺伝子型の適合性検査は、GVHD (移植片対宿主反応) を予測、回避するうえで非常に重要です。また疾患感受性 HLA 抗原と疾患感受性の相関については、強直性脊椎炎と B27、ナルコレプシーと DR2 との相関が有名です。遺伝子レベルでは、橋本病と A*0201、A*0206、A*0207、ベーチェット病と B*5101 が知られています。HLA 抗原と疾患感受性の相関は HLA 抗原の構造自体が疾患感受性に影響を与える場合や、HLA 抗原を決定する遺伝子と疾患感受性遺伝子とが連鎖不平衡にあること等が推測され、その他多くの疾患について研究が続けられています。

参考文献

吉川 枝里, 他: MHC 10 (1): 21~31, 2003. (検査方法参考文献)

後藤 香織, 他: 病理と臨床 16 (6): 711~716, 1998 (臨床的意義参考文献)

以上